



美瑛町立美瑛中学校
学校だより
令和4年10月号

つながる思い～CSからの提案～

校長 金山 達也

10月14日6校時、3年生を対象として、防災学習が行われました。本校では年2回の避難訓練を実施していますが、それは自分の命や周りの人の安全を守る行動に関わることを目的としています。しかし、今回行われた防災学習は避難した後のことに焦点をあてています。美瑛町の総務課の防災担当者を講師として迎えて、「避難所で何ができるか」～避難所の設営から運営について～を考えるよい機会となりました。

実は本校においてこの学習を実施するきっかけとなったのが今年で6年目を迎えるCS（コミュニティスクール）事業でした。私も教頭として参加していた初年度のCS会議の中で、委員の一人から出されたアイデアが「地域と学校の協働による避難訓練の実施」でした。みなさんもご承知のとおり、CSの目的は次の通りです。

学校と家庭・地域のつながりをより一層深め、地域住民が学校運営に積極的に参画する仕組みを構築しながら、双方の信頼関係を築くとともに、学校の教育活動の一層の充実を図ることを目指す。

少子高齢化、地域の教育力の低下、学校が抱える問題の複雑化などが現代社会の課題となって久しいですが、それらを解決するための一つの手段としてCSが全国で導入されてきています。その流れから、美瑛町も6年前に全小中学校がCSを導入するに至りました。その導入にあたり、本校ではどんな取組をしていくのかという点に焦点があてられました。2011年東日本大震災、2016年熊本地震を代表とする災害大国日本、美瑛町も活火山である十勝岳を抱えている状況を鑑みて、何か防災に関することで地域と学校が協力できないかという議論がその会議でなされたことを記憶しています。折しも、その翌年には、北海道胆振東部地震によるブラックアウトが起きました。本校は実際に避難所となり、多くの方が充電等で来校されましたが、そのとき、中学生の存在がこうした避難所では大きな力になることを感じました。実際に、避難所生活が長引いた地域では、避難所の設営や運営に中高生の力が役立ったと聞いています。避難することを最優先としながら、避難した後は避難所の力となる・・・そんな意識を中学生に持ってほしい。当時のCSの委員の思いが発端となって、現在の防災教室という形につながっていることを紹介したいと思います。

14日の防災学習では、講話のあと、段ボールベッドを実際に組み立てました。生徒はいくつかのグループに分かれて、組み立て説明書も見ずにあっという間に完成させていました。私も体験しましたが、組み立てる前のベッドを一人で持つのは大変な重さでした。救援物資を運んだり、避難所内を整理したり、掃除したり、高齢の方をサポートしたり・・・中学生のみなさんにもできることはたくさんありますね。もちろんそうならないことが一番の願いですが・・・。

1年生職場訪問学習

1年生は、10月5日（水）に職場訪問学習を行いました。東警察署や旭川空港など7カ所の職場を訪問しました。各職場では、普段は見たり触れたりすることのない、貴重な体験をさせていただきました。将来について考える、とても良い機会となりました。



2年生職場体験学習

10月13日（木）、14日（金）の2日間、2年生は美瑛町を中心に、学校や公共施設ほか16カ所の職場で体験学習を行いました。各職場では実際に仕事に従事し、楽しさや達成感、大変さや苦勞に触れることができました。生徒たちにとっても、将来の自分の仕事をイメージできる、貴重な体験になったと思います。2日間、生徒を受け入れていただいた事業所の皆様、ありがとうございました。



3年生防災学習

3年生は、10月14日（金）に防災学習を行い、災害時に実際に使用する段ボールベッドを作りました。万が一の時には何をするか、イメージすることができました。



祝 吹奏楽部、全国大会出場！

吹奏楽部は、第28回日本管楽合奏コンテストで、昨年に引き続き全国大会出場を果たしました。昨年度の全国大会は、コロナ禍のため音源審査でしたが、今年度は千葉県のホテルで演奏することになりました。美瑛中ならではの、豊かなサウンドを全国の舞台上で響かせます。おめでとうございます！

